

令和4年度 学部越境型地域志向科目 開講予定科目一覧

整理番号	授業科目名	主担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
1	地域プロジェクト演習－青森における多文化共生を考える－	亀谷 学(人文社会科学部)	「多文化共生とはなにか」という問いに対して、ディスカッションを通じて理解を深めながら、具体的にどのような方策が考えられるかを、大学や地域を舞台として調査する。また、それをプレゼンテーションの形にまとめ、どのようにして実現するかについて考える。	前期	月曜日	3・4時限	15	
2	青森エクスカージョン－青森の生物学①－	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	月曜日	3・4時限	30	
3	地域プロジェクト演習－サウンドスケープ入門－	今田 匡彦(教育学部)	○ヒトが生まれる以前から存在した音に着目し、どのような奇蹟を齎したかを、実際に在る地域のサウンドスケープを通して検証し、その意義や限界を理解する。○上記から抽出された素材を利用し、地域に根差したアート・プロジェクトを企画、実施するための手法を身に付ける。	前期	月曜日	9・10時限	20	
4	地域プロジェクト演習－地域産品の創作A－	富田 晃(教育学部)	・わら細工による創作・後帯機による手織物の創作	前期	火曜日	1・2時限	14	
5	地域プロジェクト演習－健康革命を学ぶ－	村下 公一(COI研究推進機構)	弘前大学では、医学研究科が中心となって、ビッグデータを活用した認知症や生活習慣病など病気の予兆発見の開発や、予防法を開発する研究とビジネス化に取り組んでいます。プロジェクト名は「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」(弘大COI事業)です。この授業では、同プロジェクトを事例として取り上げます。○弘大COI事業の概要を理論的・経験的に知り、その先進性や今後の課題を理解する(なお医学に関する専門知識は不要です) ○弘大COI事業の現状を踏まえて、プロジェクトの改善や青森短命県返上に向けた社会実装の具体案を企画する	前期	火曜日	3・4時限	40	
6	地域プロジェクト演習－北東北の舞踏と芸能ワークショップ－	GRIGORE IRINA FLORENTINA(非常勤講師)	青森県をクリエイティブな地域として再発見するために、文化人類学およびパフォーマンス研究の立場から、イメージ、踊り、コミュニティなどのキーワードによる創作ワークショップを行い、映像・展示・インスタレーションという民族誌の最新手段を実践していきます。	前期	火曜日	3・4時限	25	
7	地域プロジェクト演習－津軽地域文化国際共修A－	高橋 千代枝(国際連携本部)	津軽地方に存在する伝統工芸や芸術、文化や史跡、また、津軽地方に関する文学作品や文化論等について、教材動画を日本人学生と留学生が共に視聴し、また、時にフィールドトリップに出かけ、津軽地域の特色について学びを深める。これらの学びから得た気づきや問題意識を発展させ、グループワークを行い、テーマについての調査、発表を行い、国際的な視野から見た当該地域の魅力や特色を再発見し、世界に発信する方法を考える機会とする。	前期	火曜日	7・8時限	10	
8	青森エクスカージョン－青森県の農地の生態学－	ムラノ 千恵(非常勤講師)	○青森県の農地環境とそこを利用する生物との関係性を知る○農地における生物多様性保全の重要性や課題、人間の経済活動や地域社会との関係性を考える。	前期	水曜日	7・8時限	25	
9	地域プロジェクト演習－地域メディア活用の実践－	大浦 雅勝(非常勤講師)	インターネットによる地域情報の発信を通じて、ビジネスに不可欠なインターネットリテラシーを向上させる講義です。具体的には、私たちの暮らす地域の魅力である文化・歴史・企業・店舗・イベント・人などを個人やグループワークで発見します。地域の魅力を伝えるために取材を行い記事を書きインターネット上のニュース媒体(ブログ)に掲載します。掲載した記事をSNSなどを活用してアクセスを増加させます。最後に情報発信による効果の測定をします。実社会で役立つスキルが身につく講義です。	前期	水曜日	7・8時限	30	

整理番号	授業科目名	担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
10	地域プロジェクト演習－食と地域づくり－	柴田 彩子(非常勤講師)	○食を、地域の資源として活用する上で必要な視点を学びます。○青森県内外の食に関するグループ活動を事例に、食に関わる地域づくりの実例を学びます。あわせて、外部者が取りうるさまざまな支援の形を学びます。○地域を紹介するフリーペーパーを題材に、地域の特徴ある食文化をどのように紹介しているか、情報発信のあり方について検討します。○地域の特徴的な食を紹介するプレゼンテーションを行うことで、地域の資源である食にアプローチし、情報発信する手法を身につけます。	前期	木曜日	1・2時限	40	
11	青森の多様性と活性化－地域社会とメディア－	松本 悦子(非常勤講師)	○メディア論の基礎的な知識や方法論を学び、現代社会を眺める視座を身に付けることを目指します。○地域社会における生活とメディアの関係性を考えるために、地域活動の見学等を行い、青森における地域メディアの役割と可能性について考察します。	前期	金曜日	5・6時限	30	
12	青森の多様性と活性化－原発・核燃と地域社会－	宮永 崇史(理工学研究科)	青森県六ヶ所村には、日本の原子力政策の基幹をなす核燃料サイクル施設が建設され、青森県の政治・経済・社会にさまざまな影響を与えてきましたが、2011年3月の福島第一原発事故以来、原発の安全神話が崩れるとともに、核燃料サイクル施設の必要性についても疑問の目が向けられるようになりました。今年の3月で事故からちょうど10年が過ぎました。青森県や日本社会はどう変わったでしょうか。そこで、この授業では、青森県における原子力開発の歴史、核燃料サイクルをめぐる諸問題、再生可能エネルギー事業の現状などを多様な学問分野の視点から多角的に学びながら、青森県の将来にとって核燃料サイクル施設は必要かどうか、原子力に頼らないエネルギー政策は可能かどうかといった問題について考えます。	前期	水曜日	3・4時限	40	
13	市民参加と地域づくり－新しいグローバル時代の市民性教育とオルタナティブスクール－	宋 美蘭(教育推進機構)	さまざまな現代的な課題について、受講生とともに議論を深めながら、その議論の叩き台として、上記の課題に真向する新しい学び・教育・学校づくりに挑戦している、国内外の事例を紹介し、新しいグローバル(Glocal)時代に求められる人間像について検討する。	前期	水曜日	3・4時限	30	
14	青森の食と産業化－Cultural anthropology of local food and dietary practice－	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○青森の食の多様性について特に食文化の観点から学びます。Diversity of Food in Aomori from a cultural point of view will be explored. ○文化資源として青森の食が持っている潜在性について、フィールドトリップの体験から学びます。Through excursions, potential of cultural resource in Aomori local food will be explored.	前期	水曜日	5・6時限	12	
15	青森エキスカベーション－Cultural anthropology of exhibitions－	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○路上のデザインと遺跡を対象とした視聴覚的な側面についてフィールドワークし、文化人類学的な学修を身に着けます。Anthropological study based on the audiovisual aspects in field work will be conducted through observing street designs and archaeological sites.○青森の地域性について考古学的遺跡と路上景観のフィールドトリップから学習します。Locality of Aomori will be explored through making field trips to archaeological sites and contemporary street landscape.	前期	水曜日	7・8時限	8	
16	地域プロジェクト演習－津軽地域文化国際共修C－	高橋 千代枝(国際連携本部)	津軽地方の酒蔵や地域の観光施設などを留学生と日本人学生がともに巡り、見学で見つけた地元の産業の問題を発見し、それについて調べ、問題解決に向けての提言を協働で探る。最後に聞き手に訴えかける発表を準備し、発表会を開き、学びの成果を地域に還元する。	前期	水曜日	3・4時限	10	
17	地域プロジェクト演習－プロジェクト設計による地域課題の解決(発展)－	米田 大吉(非常勤講師)	現実の地域社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。この演習では、いままでの学びを深め、自らの課題認識を具現化し、チームを組織して、仲間とプロジェクト設計の過程を共有するためのワークショップを繰り返し、魅力的な課題解決プロジェクトを設計し、実際にプロジェクト参加者を募集します。フィールドワークは必須になると思います。課題の裏側にある本質を議論し、課題を概念としてではなく現実的に受け止めることを重視し、実社会で活躍できる社会人に必要な能力を高めることを到達目標にします。1)身の回りにある課題の本質を把握し、その普遍性を整理して、評論家ではなく実践者・当事者として行動できる 2)自分の考えを自分の言葉でまとめ、きちんと他者に伝えられる が評価ポイントです。	前期	水曜日	7・8時限	20	

整理番号	授業科目名	主担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
18	青森エクスカッションー青森の生物学②ー	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	木曜日	3・4時限	30	
19	青森の多様性と活性化ー消費者市民社会入門ー	福田 進治(人文社会科学部)	今日の日本社会では、強引な勧誘や不公正な契約、架空請求や不当表示など、消費生活をめぐるトラブルが絶えず生じています。また、私たち自身の消費生活のあり方が社会環境や自然環境に影響を与えることが問題になっています。そこで、この授業では以下の3点を中心に消費者問題を学びます。○今日の消費者問題を学びます。○消費者市民社会の考え方を理解します。○消費者市民社会の形成に主体的に関わる方法を考えます。	前期	木曜日	3・4時限	40	
20	青森の多様性と活性化ー人口減少社会の再デザイン:新幹線をキーワードにー	楯引 素夫(非常勤講師)	○青森県、特に津軽地方は日本でも最も激しい人口減少と高齢化に直面してきました。そこへ、2020年初頭から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)コロナ禍が、世界に歴史的な転換をもたらしています。○本科目においては、「ポスト・コロナ」を視野に、「新たな学び」の体験、さらにはこれからの時代を生き抜き、担う力を培うことを目指します。○具体的には《「弘前／津軽という人口減少社会」×「コロナ社会」×「弘前大学生の今」》をめぐって、何らかのテーマを設定し、フィールドワークに基づく調査と考察、プレゼンを実施してもらいます。キーワードとして、「あらためて見つめる弘前／津軽」、「コロナ禍が弘前／津軽にもたらしたもの」、「コロナ時代と新幹線」を想定しています。○オフライン・オンラインで、外部のゲストスピーカーを招いて、問題提起や助言をいただきます。※既に、この授業を履修した弘大OBの社会人から協力のオファーが届いています。また、過年度は、弘前市役所、弘前路地裏探偵団、青森大学生らの協力を得ました。今年も参加を調整中です。○最終的な成果を学内にとどめるのではなく、関係する方々や市民の方にも届けられるよう努めます。※過年度は弘前市役所、JR東日本、青い森鉄道などに提案を届けました。	前期	木曜日	3・4時限	35	
21	青森エクスカッションーResearch in communal sustainabilityー	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○個別の課題を設定して調査し、それをドキュメントする方法について学びます。Documentation skill will be acquired through individually designed research project. ○調査対象を青森周辺に設定することによって、幅広い角度から地域の生活などについて学びます。local ways of life will be learned from various angles through field research in Aomori.	前期	木曜日	7・8時限	8	
22	青森エクスカッションー質的社会調査入門ー	高瀬 雅弘(教育学部)	○講義と実践を通して多様なデータ素材に対する感受性を磨き、質的社会調査の方法を学ぶ○質的社会調査を通して、私たちの身の回りの社会＝青森県を中心とした地域社会への理解を深める○質的社会調査の代表的な方法である様々な観察法・聞き取り・ドキュメント分析について紹介し、それぞれについて簡単な実践を行う○大学周辺地域をフィールドに各自の関心に基づいた社会調査を行い、他者に対してプレゼンテーションを行うことで、質的社会調査の一連の過程を習得・実践できるようにする	前期	木曜日	3・4時限	10	
23	地域プロジェクト演習ー弘前のアートワールドー	朝山 奈津子(教育学部)	○地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。○「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。○弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。○以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。	前期	木曜日	3・4時限	20	
24	地域プロジェクト演習ー子ども・子育てと地域ー	増田 貴人(教育学部)	地域社会参加には実際にはいろいろなアプローチが考えられるが、本授業においては、企画の対象を「子ども(概ね年長幼児から小学生くらい)」とすることで、それを発揮するためのプログラムを学生自ら企画・実践をする、いわば育児分野を切り口にした地域社会参加を考えてもらう。いわば、体験的学習につなげていくサービスマーケティングを企画しており、そのなかで、以下の3点を学んでもらうよう指向している。①子ども・家族と絡めた地域社会活動につながる知識・技術・マナーを講義等で学ぶ②実際に地域のなかで育児支援活動を企画・準備・実践してみることで、地域社会参加について体験的に深めていく。③学生個々の地域社会の当事者意識の醸成	前期	木曜日	3・4時限	24	
25	青森の多様性と活性化ーInternational Studies of Business Practices in Regional Japan①ー	高橋 千代枝(国際連携本部)	日本企業に就職するために必要なビジネスマナーや日本企業風土等を学ぶため、地元企業等からゲストスピーカーを招き、実際の業務についての講演を聞き、内容をまとめ、グループワークでディスカッションを行い、国際的な比較等を通して、世界のビジネス事情や国によって異なる企業風土などを学ぶ機会とする。それらをグループワークでまとめ、発表し、報告することによって、日本企業文化について理解を深める。	前期	木曜日	7・8時限	10	

整理番号	授業科目名	主担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
26	地域プロジェクト演習－アート・プロジェクト入門①－	高橋 憲人(非常勤講師)	○特定の地域で開催されるアートイベントの多くは、「参加型」を標榜しているものであっても、予め企画者側によって目指すべき最終成果が設定されています。しかし、芸術とは、自身の生活環境(地域)のなかで物事と照応しながら、その環境を少しずつ変化させてゆくプロセスそのものはずです。この授業では、従来のアートイベントを批判的に検討し、自身の生活環境を基盤とした芸術活動の可能性について考えます。○授業内での演習(ワークショップ)を通して、生活環境のなかでの自身とさまざまな素材(地域資源)との関係性を経験的に学びます。そこから、授業の最終段階として、一人ひとりが生活環境のなかの物事を素材にした芸術実践のエクササイズをデザインします。	前期	金曜日	7・8時限	25	
27	青森エクスカッション－青森県の企業の魅力を発信①－	小寺 将太(非常勤講師)	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ調査を行い、現地調査のスキルを身につけていきます○各学部の力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力をどのように発信していけばよいか解決策を企画・提案していきます○青森県内の企業の魅力を発信する企画の実践を通して、県内企業が抱える課題を解決していくことが本講義の目的です	前期	金曜日	9・10時限	24	
28	青森エクスカッション－津軽の漆工芸①－	高橋 憲人(非常勤講師)	○青森県の漆工芸である津軽塗は、2017年に重要無形文化財に指定されました。興味深いことに、唐塗やなご塗といった近代に様式化された個別の模様ではなく、「研ぎ出し変わり塗」という技法そのものが指定対象となりました。つまり、研ぎ出すことによって様々な模様をつくることできる、という多様性そのものが評価されたのです。しかし、津軽塗の現状を俯瞰すると、せっかく評価されたはずの表現の多様性が、一般市民に対して上手く発信できていないという問題が浮かび上がってきます。この授業では、明治期からの国の政策や全国的な工芸の潮流のなかで、どのように津軽塗が構築されてきたのかを踏まえつつ、学外での演習や実地調査を通じて津軽塗のおかれている現状を学びます。○以上を踏まえ、津軽塗の文化資源としての活用方法を、グループワークを通して討議・提案します。	前期	金曜日	9・10時限	25	
29	地域プロジェクト演習－地域文化の映像人類学①－	GRIGORE IRINA FLORENTINA(非常勤講師)	映像人類学の観点から青森の地域の文化に触れる。学生は実際に映像を撮影しそれを発表することによって地域の文化とは何かを自分自身の目線ととらえ直す。	前期	金曜日	9・10時限	30	
30	青森の多様性と活性化－地域活性化論①－	長南 幸安(教育学部)	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。	前期	集中	-	90	5月～6月の土日に実施
31	青森の多様性と活性化－地域社会と移動①－	成田 凌(非常勤講師)	○日本の「最周縁」に位置する青森県(出身者)の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて理解を深める。○講義の前半では、農村-都市移動(都市移住)、還流移動(Uターン)、地方移住(「田園回帰」やターン)といった人びとの地域間移動との関連から地域社会について考える。後半では、(進学や就職、結婚などにともなう)移動経験との関連から、青森県(出身者)における暮らしや価値観について検討する。○授業内容の理解・定着および受講生間での考察・議論を深化させる機会を確保するため、複数回の課題研究(自分の意見をまとめる作業)とディスカッション(意見の発表・共有・差異の認識)を実施する。	前期	集中	-	20	
32	青森エクスカッション－青森の生物学③－	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	集中	-	30	
33	青森エクスカッション－青森の農の可能性①－	平井 太郎(地域社会研究科)	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて鱒ヶ沢の例に即して学ぶ。・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。	前期	集中	-	30	
34	青森エクスカッション－陸奥湾の生物学①－	美濃川 拓哉(非常勤講師)	○陸奥湾に面する東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター(青森県青森市)で、海洋生物に関する観察実習を行う。○野外および実験室で陸奥湾の生物を観察し、海洋生物についての理解を深める。○野外観察の方法および危険回避の方法を身につける。	前期	集中	-	11	授業実施場所:東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター(青森市) ※現地集合を予定

整理番号	授業科目名	主担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
35	地域プロジェクト演習－弘前市の課題と発展を考える－	森 樹男(人文社会科学部)	○自分たちの住む地域の様々な課題について市内3大学(弘前大学, 弘前学院大学, 柴田学園大学)の学生と一緒に学び、課題解決に向けて話し合う。○テーマは日替わりで、I.弘前市の健康長寿と食生活、II.病気を抱える子供の成長と援助の課題(仮)、III.若者にとって魅力あるまちづくり○テーマごとに地域の発展のために学生自身ができることについて考える(教員による講義のほか、テーマに沿ったゲストスピーカー(弘前市役所職員など)による講義、3大学の学生と一緒にグループディスカッションなどで構成)○「大学コンソーシアム学都ひろさき」によって運営される科目です。	前期	集中	-	30	
36	地域プロジェクト演習－地域生活調査実習－	高瀬 雅弘(教育学部)	○2008年に公布・施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称・歴史まちづくり法)に基づいた歴史まちづくりについて学ぶ○弘前市が指定する「趣のある建物」「景観重要建造物」などを訪問し、現状を把握するとともに指定制度を運用する行政担当者、所有・管理する関係者への聞き取りを行う○調査結果に基づき、今後の保存と活用に向けた課題を探る	前期	集中	-	10	
37	青森エクスカッション－地域の情報の集め方・まとめ方・伝え方－	柴田 彩子(非常勤講師)	○何が「地域に関する情報」なのか検討します。○まちあるき・インタビュー・参与観察などフィールドワークの手法を用いて、地域の情報を収集することを学びます。○収集した情報を適切に整理する手法を学びます。○「地域に関する情報」を、地域の魅力を表すものとして実際に発信します。	前期	集中	-	15	
38	地域プロジェクト演習－弘前の文化資源－	葉山 茂(人文社会科学部)	○大学周辺の民俗的事象に焦点を当てて、地域の文化的資源について学びます。○弘前とその周辺の文化的資源に注目して、フィールドワークをすることで、文化を記録して資源化する過程を体験します。○地域の文化的資源が置かれた状況、将来に向けての課題について考えます。	後期	月曜日	3・4時限	20	
39	青森の多様性と活性化－雪国活性化論－	長南 幸安(教育学部)	○青森や津軽などの雪国の生活に関して、どのような問題があるのか、その原因は何であるか、魅力は何かを学習し、理解する。○雪国での生活の問題点や魅力を理解し、それを克服し、雪とともに暮らす生活を楽しいものにするためにはどうすべきか、どのような方法があるかを考察する。	後期	月曜日	5・6時限	40	
40	地域プロジェクト演習－地域産品の創作C－	富田 晃(教育学部)	木工品(青森の地域産材を材料とし、一つの塊から削りだすもの)の創作。	後期	月曜日	7・8時限	14	
41	青森の多様性と活性化－青森の女性と子育て－	GRIGORE IRINA FLORENTINA(非常勤講師)	文化人類学の立場から子育てとジェンダーに関わる問題点を分析し、異文化の子育てと女性の立場と比較した青森県の女性の物語を考察する。結婚、子育て、シングルマザー、離婚など、個人史というミクロなレベルでの例を挙げながら青森県での暮らしを見る。「母親」というキーワードを中心とした戦後日本と青森の文化の理解を深める。	後期	火曜日	3・4時限	25	
42	青森エクスカッション－コミュニティと情報－	松本 悦子(非常勤講師)	○コミュニケーション論の基礎的な知識を学び、現代社会を眺める視座を身に付けることを目指します。○社会におけるコミュニティと情報の関係性を考えるために、地域に根ざした活動の取材・調査等を行い、青森における課題について考察します。	後期	火曜日	5・6時限	15	
43	地域プロジェクト演習－津軽地域文化国際共修B－	高橋 千代枝(国際連携本部)	津軽地方に存在する伝統工芸や芸術、文化や史跡、また、津軽地方に関係する文学作品や文化論等について、教材動画を日本人学生と留学生が共に視聴し、また、時にフィールドトリップに出かけ、津軽地域の特色について学びを深める。これらの学びから得た気づきや問題意識を発展させ、グループワークを行い、テーマについての調査、発表を行い、国際的な視野から見た当該地域の魅力や特色を再発見し、世界に発信する方法を考える機会とする。	後期	水曜日	7・8時限	10	

整理番号	授業科目名	担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
44	青森エクスカージョンーMaking ethnography of local issuesー	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○地域の生活に関する個別の関心に基づいた民族誌的調査を設計し、それを土台にフィールド調査を行います。Student is expected to design and conduct an ethnographic research on local lives of any particular topic chosen by student.○授業の最後には、調査結果をもとに文章またはビジュアルによる民族誌的な報告を取りまとめてもらいます。The result of reach must be completed in the forms of an ethnographic report in writing or visual representation.	後期	木曜日	7・8時限	8	
45	市民参加と地域づくりー若者の政治参加ー	森本 洋介(教育学部)	・全国的に課題となっている若者の政治参加のあり方について、青森県の若者の政治参加の向上を念頭に置いて学ぶ。・若者の政治がなぜ低いのかを多面的に考察する(CP・DP2 解決する力)。・そもそも民主主義とは何か、なぜ若者が政治参加することが重要なのか、学校における政治的中立性とは何か、主権者教育はどうあるべきか、などといった現代の課題についても学習し、自分なりの回答を導き出す(CP・DP2 解決する力)。・テレビ、新聞、SNSといったメディアによる情報の伝え方についても多面的に解釈する能力(メディア・リテラシー)を、演習を通して身に付ける(CP・DP2 解決する力)。	後期	木曜日	9・10時限	24	
46	青森エクスカージョンー津軽平野の自然と防災・減災ー	小岩 直人(教育学部)	・津軽平野の特色を地理学的な観点で解説し、その後、津軽平野の西部において巡検を実施します(バスを利用)。・地形図、空中写真、ハザードマップ等を使った室内での調査をもとに、当該地域の防災・減災について考察します。・このような巡検・調査をもとに、地理学的な観点から、自然の成り立ち、および自然と人間生活と関係を考慮した防災に関する基礎的な能力を養います。	後期	木曜日	9・10時限	30	
47	青森の多様性と活性化ー介護文化と高齢化ー	北嶋 結(保健学研究科)	○超高齢化地域で、困難や今後の心配事が多くありながらも元気に生活する高齢者について、フィールドワークを通して理解する○地域包括ケアシステムの現状に関する理解を深め、今後求められるコミュニティケアと自分たちに可能な方策を導く	後期	木曜日	9・10時限	10	
48	青森エクスカージョンー北日本の民俗芸能・祭りー	下田 雄次(非常勤講師)	○青森県を中心として、各地の民俗芸能や祭りに関わる人々の姿に触れます。○当事者の立場に立脚した視座を獲得しながら、各地域においてこれらの文化がもつ意味や社会的機能、人々の考え方や価値観などについて理解を深めてゆきます。○各地の民俗芸能や祭りがどのように受け継がれ、実践されているか、どのような意味や価値、魅力、あるいは課題や展望が認識されているか等といった点に着目しながら、地域の人々の生活の営みの中にある存在として、これらの文化を捉え、考えてゆきます。○現在の私たちの日常における音楽や身体(芸能を支える要素)の常識を相対化する視点を学びます。○この授業では、映像や音声を用いた現場の状況説明を基本にして各地の事例を見てゆきます。○各地における調査の方法に触れながら、現地調査についても学びます。○祭囃子や踊りの所作などの体験的学習や、祭囃子の音楽的な分析も行います。	後期	木曜日	9・10時限	80	
49	青森の多様性と活性化ーあおもりの暮らしー	李 永俊(人文社会科学部)	本講義では、本学が位置している青森県の暮らしを学習テーマとして取り上げる。学習者が自ら行う情報収集、課題発見、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、暮らしの現状を把握し、その解決策を模索する課題探求型アクティブラーニングで行う。	後期	金曜日	3・4時限	30	
50	地域プロジェクト演習ーフィールドワークの世界ー	羽瀨 一代(人文社会科学部)	○この授業では、身近にあるメディアとしてケータイをトピックにフィールドワークの手法を説明します。○教科書にある地域におけるメディアのフィールドワークの事例を学び、青森県内地域へと応用する手法を学びます。○社会学、人類学の手法を用いることによって、社会の様相を理解する方法を学びます。○青森県内のメディア状況をフィールドワークで把握します。○そのうえで、メディア環境の問題を明らかにすることで環境改善デザインをおこないます。○フィールドワークの基本的技術に関する知識の習得をします。	後期	金曜日	3・4時限	15	
51	青森の多様性と活性化ー地域社会とジェンダーー	羽瀨 一代(人文社会科学部)	○ジェンダー問題について、人々の生活に関わり、国や地域社会における様々な政策展開に左右されていることを理解する。とくに青森県においてもジェンダー・セクシュアリティに関わる問題があることを知る。○組織活動におけるジェンダー問題として日本のみならず、世界の経済に影響を与えられていることを理解する。○少子・高齢化問題とのかかわりを知る。○ジェンダー論により、現代社会の直面する課題がどのようなものであるかを知り、その解決方法を考える。○「ジェンダー=社会的性差」という視点は、現在では、差別や抑圧的イデオロギー、制度の告発に利用されるといふ運動的な側面を超え、より一般的に社会を把握するための概念措置となっていることを理解する。○思想的な色合いよりも社会科学的思想法としての「ジェンダー視点」を学ぶ。○ジェンダーは、どのような社会的現象にでも内在するため、担当教員のそれぞれの専門分野における最新のトピックをジェンダーという概念措置を利用して講義します。○また青森県にある文化財やそれ以外の地域にある文化財とジェンダーのかかわりについて学びます。	後期	金曜日	5・6時限	120	

整理 番号	授業科目名	主担当教員	科目概要	開講時間 第1希望			学生 受入定員	備考
52	地域プロジェクト演習－アート・プロジェクト入門②－	高橋 憲人(非常勤講師)	○特定の地域で開催されるアートイベントの多くは、「参加型」を標榜しているものであっても、予め企画者側によって目指すべき最終成果が設定されています。しかし、芸術とは、自身の生活環境(地域)のなかで物事と照応しながら、その環境を少しずつ変化させてゆくプロセスそのものはずです。この授業では、従来のアートイベントを批判的に検討し、自身の生活環境を基盤とした芸術活動の可能性について考えます。○授業内での演習(ワークショップ)を通して、生活環境のなかでの自身とさまざまな素材(地域資源)との関係性を経験的に学びます。そこから、授業の最終段階として、一人ひとりが生活環境のなかの物事を素材にした芸術実践のエクササイズをデザインします。	後期	金曜日	7・8時限	25	
53	青森エクスカージョン－青森県の企業の魅力を発信②－	小寺 将太(非常勤講師)	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ調査を行い、現地調査のスキルを身につけていきます○各学部の力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力をどのように発信していけばよいか解決策を企画・提案していきます○青森県内の企業の魅力を発信する企画の実践を通して、県内企業が抱える課題を解決していくことが本講義の目的です	後期	金曜日	9・10時限	24	
54	青森エクスカージョン－津軽の漆工芸②－	高橋 憲人(非常勤講師)	○青森県の漆工芸である津軽塗は、2017年に重要無形文化財に指定されました。興味深いことに、唐塗やなご塗といった近代に様式化された個別の模様ではなく、「研ぎ出し変わり塗」という技法そのものが指定対象となりました。つまり、研ぎ出すことによって様々な模様をつくることできる、という多様性そのものが評価されたのです。しかし、津軽塗の現状を俯瞰すると、せっかく評価されたはずの表現の多様性が、一般市民に対して上手く発信できていないという問題が浮かび上がってきます。この授業では、明治期からの国の政策や全国的な工芸の潮流のなかで、どのように津軽塗が構築されてきたのかを踏まえつつ、学外での演習や実地調査を通じて津軽塗のおかれている現状を学びます。○以上を踏まえ、津軽塗の文化資源としての活用方法を、グループワークを通して討議・提案します。	後期	金曜日	9・10時限	25	
55	青森の多様性と活性化－地域活性化論②－	長南 幸安(教育学部)	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。	後期	集中	-	90	10月に実施予定
56	青森の多様性と活性化－地域社会と移動②－	成田 凌(非常勤講師)	○日本の「最周縁」に位置する青森県(出身者)の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて理解を深める。○講義の前半では、農村-都市移動(都市移住)、還流移動(Uターン)、地方移住(「田園回帰」やターン)といった人びとの地域間移動との関連から地域社会について考える。後半では、(進学や就職、結婚など)ともなう移動経験との関連から、青森県(出身者)における暮らしや価値観について検討する。○授業内容の理解・定着および受講生間での考察・議論を深化させる機会を確保するため、複数回の課題研究(自分の意見をまとめる作業)とディスカッション(意見の発表・共有・差異の認識)を実施する。	後期	集中	-	20	
57	青森エクスカージョン－青森の農の可能性②－	平井 太郎(地域社会研究科)	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて鯉ヶ沢の例に即して学ぶ。・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。	後期	集中	-	30	